# 只見ユネスコエコパーク

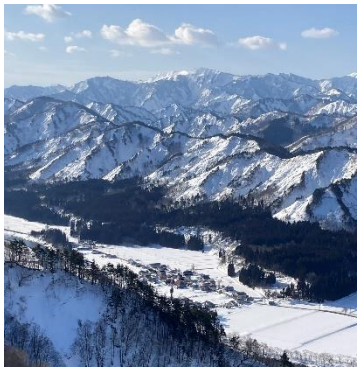
## ～豪雪が生んだ自然と生活文化を守り、活かす取り組み～

### 1　豪雪により生まれる景観と生物多様性

平成 26 年 6 月に、只見町全域と檜枝岐村の一部が「只見ユネスコエコパーク」に認定され、自然と人間社会の共生に向けた取り組みが進められています。ユネスコエコパークとは、ユネスコが認めた“人と自然との共生”に取り組む国際モデル地域です。

只見ユネスコエコパークは県の西端に位置し、標高 1,000m 前後の山々に囲まれた山間地域です。日本有数の豪雪地帯で、平地でも 3-4m 程度の雪が積もります。

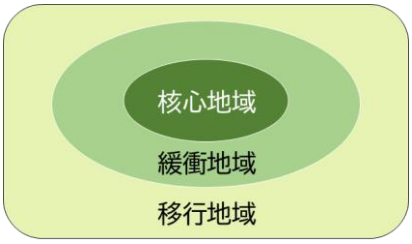
また、只見の山々は比較的もろい凝灰岩を基岩とするため、冬の雪崩で山の斜面が削られ、「雪食地形」という特異な地形が生まれます。そして、この急峻で複雑な立地環境の山々に適応したブナ林をはじめとする多様な植生がモザイク状に成立します。こういった変化に富む植生は、多様な野生生物の生息・生育を支えています。



雪食地形が広がる只見地域

### 2　ユネスコエコパークの構造

ユネスコエコパークでは３つの土地利用区分を設定し、取組を推進しています。




核心地域・・原則立ち入り禁止（調査研究等の利用は可）
守るべき貴重な自然環境

緩衝地域・・教育やレクリエーション、伝統的採取、狩猟等は可
核心地域とほぼ同等の自然環境を有する
移行地域の人間活動から核心地域を保護する目的で設定

移行地域・・人間の生活圏が対象
環境に配慮した産業活動により持続可能な経済発展を目指す地域

### 3　学術調査研究の推進　～未解明地域の調査研究～

只見ユネスコエコパークの事業の一環として、平成 28 年から令和 3 年にかけて、総合学術調査を実施しました。調査を行った沼ノ平地域は、ブナ林と湖沼群からなる一帯で、過去に何度も地滑りが発生した場所であり、今まで十分に調査が行われてこなかった地域です。今回の調査研究により、沼ノ平地域の植物、動物の多様性が非常に高いことが明らかになり、絶滅危惧種や本州初確認の種なども記録されました。多様性が高い理由としては、長年にわたる地すべりによる自然かく乱で形成された多様な地形や自然環境にあると考えられ、今後、2024 年に控えたユネスコへの定期報告の一部として、国際社会に発信される予定です。

### 4　自然や伝統的な生活文化を活用した取り組み

「人と自然との共生」の実現に向け、特色ある豊かな生物多様性を活かす取組も行われています。例えば、地域の自然環境や自然と人の関わりを理解することを目的に、「ただみ観察の森」が整備されています。森林内に必要最小限の観察路等が設置され、環境教育や企業などの視察研修の場として利用されています。また、天然資源や伝統技術等を使用した産品を『『自然首都・只見』伝承産品」として認証し、ブランド化することで、町の活性化を目指す取組も行われています。長い歴史の中で育まれた地域の自然やそれらを拠り所とする生活文化を活かすこのような取組は、世界に誇る取組と言えるでしょう。

ただみ観察の森での環境学習の様子

「自然首都・只見」伝承産品